

自主企画研修事業 企画一覧表

○研修の種類:海外研修

年度	受付番号	市町村名	研修テーマ	研修目的	研修目的地	研修実施期間	研修職員所属名 (人数)
H16	1	高知市	トランジットモールと中心市街地活性化	中心市街地活性化を成功させている事例のうち、ヨーロッパのいくつかの都市におけるトランジットモール等の調査や視察を行い、中心市街地活性化における公共交通の役割の他、都市景観形成やユニバーサルデザインの必要性について検証し、その成果を建築行政に活用する。	ドイツ フランス スイス	平成16年7月7日 ～16日(10日間)	建築指導課
	2	高知市	アジアにおけるエイズ対策の現状視察	第15回国際エイズ会議が開かれるタイを視察し、エイズ対策の現状を知り、効果的なエイズ対策の手法を身につける。	タイ	平成16年7月12日 ～16日(5日間)	介護保険課
	3	高知市	CSA(Community Supported Agriculture)農業システム及び作物クリニック運営の現地研修	現在発展しつつある直販農業振興のため、もっともその特徴を生かすことのできるCSA農業システムの運営について、また五歩久村直販農業の有利さの根幹である環境保全型農業の一層の推進のため、体系だった病害虫診断サービスシステムの運営について、それぞれ実地で研修することにより、今後の方向性について検証し、現在の取り組みを次のステップに進めることを目的とする。	アメリカ	平成16年10月16日 ～30日(15日間)	産業課
H22	1	黒潮町	世界に広がる「Tシャツアート展」にみる観光振興、国際交流、地域づくりの新たな方向性について	<p>研修希望職員は、1989年の砂浜美術館設立時から現在に至るまで構成員の中心的メンバーである。組織は、当初の任意団体から現在はNPO法人として有償常勤スタッフ11名(平成22年6月時点)を抱えるまでになり、年間1億円近くの事業を実施するまでに成長した。その中でも「Tシャツアート展」は、砂浜美術館のコンセプト(これは、黒潮町のまちづくりの基本的考え方にも位置づけられている。)をもっとも明確に伝える黒潮町を代表する催しである。</p> <p>数年前に参加したボランティアの一人が、青年海外協力隊としてモンゴルに派遣され、黒潮町の「Tシャツアート展」を、モンゴルの草原でやってみることをモンゴル政府、ウランバートル観光局に提案し、昨年実験的にウランバートル市内で小規模の「Tシャツアート展」を開催した。その際には、黒潮町立入野小学校児童の作品をモンゴルに送り、現地児童生徒の作品と一緒に並べることで、Tシャツアート展を通じた国際交流を行ったのである。</p> <p>本年は5月に行われた「第22回Tシャツアート展」作品1,341点(内、モンゴル国からの応募作品202点)すべてを、7月24日から27日ウランバートル市郊外の大草原で行われる「草原美術館」で展示する。</p> <p>本年の「Tシャツアート展」開催時には、モンゴルから現地関係者3名が来町、当方関係者との打ち合わせや交流を行ったほか、町内すべての小学校において、「モンゴルのことを知る授業」を行い、モンゴル国への理解を深めたところである。</p> <p>「Tシャツアート展」を始めた当時の、「いずれは海外で、できればアメリカの西海岸で」という、淡い関係者の夢は、草原という広大な大地の上で実行されることになった。国内では「Tシャツアート展」を真似た催しが各地で開催され、その広がりを感じていたところであるが、更にハワイやフランス関係者からもオファーがあるなど、国際的広がりを見せてきているのが最近の特徴である。</p> <p>地方自治体で国際交流を行う場合、姉妹都市との交流や、児童生徒の英語圏へのショートスティなどの形態が多いが、地域から始まったオリジナルイベントを核にした国際交流は注目に値する。</p> <p>今回の研修では、黒潮町から始まった「Tシャツアート展」を元に、砂浜美術館の「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」というコンセプトがどのように解釈され、自然を生かしたアートが、いかにコミュニティを活性化させ地域の賑わいを生み、共通言語であるかを確認する。</p> <p>そのことで、今後の地域での国際交流のあり方や、地域資源を生かした地域づくりはどのようにあるべきかを、黒潮町のみならず他の自治体に向けて伝えることを、本研修の大きな目的とする。</p>	モンゴル国 ウランバートル テルルジ	平成22年7月22日 ～26日(4泊5日)	産業推進室
H23	1	高知市	子どもの視点にたったまちづくり、子ども参画のまちづくりについて	<p>少子化等によって初めて迎える本格的な人口減少時代を迎えるにあたり、税を納める働き盛りの世帯や子育て世帯に魅力のあるまちづくりが都市戦略として重要となっている。</p> <p>ドイツ、ミュンヘン市においては、子ども参画によるまちづくり、子どもの声を反映するまちづくりを、「子ども」を所管する部局がNPOとの協働によって20年来推進してきている。2年に1回のイベント、「ミニミュンヘン」の取り組み等で子どもが社会のしくみや民主主義のしくみを学んでいるほか、「子どもと若者のフォーラム」では、賛同を得た子どもも提案を市役所・市議会で実現させるとともに、もしできない場合はできない理由を3カ月以内に伝える3カ月ルールがある。</p> <p>現地において、上記フォーラムのヒアリングを始め、ミュンヘン市の子ども施策を視察することにより、「子どもの視点にたったまちづくり、子ども参画のまちづくり」について、高知市の政策、施策に反映していこうというもの。</p>	ドイツ ミュンヘン市	平成23年11月23日 ～28日(5泊6日)	地域コミュニティ 推進課
R6	1	南国市	イギリスにおける歴史遺産の観察と関連する表記情報の収集及び保存活用方法の現地調査	イギリスの世界遺産・ミュージアム等、歴史遺産に触れられる現場を訪れ、キャプション・看板表記・専門図書等、考古・歴史専門用語が書かれた媒体から写真やライティングを用いて英語表現を収集するとともに、遺構・遺物を実際に観察し、調整方法や保存活用方法等の情報を得、県下との差異等を学ぶ。	イギリス ロンドン市	令和6年10月7日 ～13日 うちイギリス滞在は3泊4日	生涯学習課